

現在の景気：県内景気は、コロナ禍による落ち込みからの持ち直しの動きが続いている。県内からの輸出は7か月ぶりに前年比プラスに転じ、製造業では、自動車生産の回復などから素材産業を中心に総じて生産活動が上向きつつある。非製造業では、観光で「GoTo トラベル」など需要喚起策の効果が広がっているほか、自動車販売も徐々に盛り返している。もっとも、消費の回復ペースは、業態による格差が大きい。建設需要は、ホテルなどでの先行き懸念が高まっているが、足許の工事量は高水準を維持している。これまでの県内景気牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はなく、先行きは、コロナ禍からの回復軌道を進ることが期待されるが、感染状況に影響を受けやすいことなどから、なお不確実性が高い。

3か月程度の見通し：経済活動の正常化が進む一方、感染再拡大への懸念も根強く、引き続き新型コロナウイルスの感染範囲・終息時期に左右される展開が続く。

個人消費：①回復基調。②9月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は前年同月比27.5%減少した。前年が消費増税前の駆け込みで水準が高かったほか（前々年との比較では13.7%減）、新型コロナウイルスの感染者下がりでも外出を控えるムードが続いた。10月は増税直後で落ち込んだ前年の水準は上回った模様。10月の自動車販売台数は同30.2%増加し、13か月ぶりに前年を上回った。一般乗用車（同37.7%増）、軽乗用車（同16.2%増）ともに改善した。前々年対比でもほぼ横這い水準まで回復している。

住宅建築：①減少。②9月の新設住宅着工戸数は、前年同月比8.5%減少し、4か月連続で前年を下回った。貸家（同4.3%増）は増加したが、分譲（同19.7%減）、持家（同0.9%減）は減少した。

設備投資：①減少。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、9月の工事床面積（年度累計）は前年同期比2.8%減少したが、工事予定額は同6.1%増加した。物流施設で大型案件がみられた。千葉経済センターによる県内企業222社アンケート調査（9月実施）では、20年度の設備投資計画は期初対比で2.1%下方修正され、19年度実績額を1.5%下回っている。

公共工事：①増加。②9月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同期比9.2%増加した。県（同10.5%減）は減少したが、独立行政法人（同25.8%増）、国（同14.0%増）、市町村（同8.3%増）は前年を上回った。

輸出：①減少一服。②9月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸送額は、前年同月比2.5%増と7か月ぶりに増加した。成田空港では、中国向け非鉄金属（同63.1%増）やスイス向け医薬品（同75.0%増）などの増加により、同5.6%増と7か月ぶりに前年を上回った。千葉港は、石油製品（同57.3%減）、金属鉱（同5.9%減）などが減少し、同30.4%減と5か月連続で前年を下回った。木更津港は、鉄鋼（同33.8%減）の減少により、同27.4%減と6か月連続で前年を下回った。

生産活動：①一進一退。②8月の県産工業生産指数（季調済）は、87.6と3か月ぶりに低下した。鉄鋼業（前月比17.8%上昇）は上昇したが、化学工業（同5.1%低下）、金属製品工業（同11.1%低下）などが低下した。

観光：①回復基調。②「Go to トラベル」や「ディスカバー千葉キャンペーン」など需要喚起策の効果から、主要観光地の入り込みや周辺の宿泊が持ち直しつつある。県が実施する「ディスカバー千葉」では、9月～10月にかけて、1人あたり最大5千円を還元する優待キャンペーンの抽選に当選枠の4倍にあたる約20万人が応募した。

雇用情勢：①悪化。②9月の有効求人倍率（季調値）は、0.85倍（前月比0.01ポイント上昇）と9か月ぶりに前月を上回った。求人数（同1.5%増）の伸びが求職者数（同1.1%増）を上回った。

【トピックス】

- 千葉県は、20～24年度の第2期総合戦略案をとりまとめ、公示した（10月13日）。2060年の総人口が527.5万人まで減少すると人口ビジョンを示したうえで、横断的目標として「復興・回復と更なる発展に向けた力強い千葉の人と仕事づくり」などに取り組むとしている。24年の具体的な数値目標として「観光客数2億400万人（18年：1億8,683万人）」などが掲げられている。
- 大和ハウス工業による印西市における日本最大のデータセンター団地「（仮称）千葉ニュータウンデータセンターパークプロジェクト」の1棟目の工事がスタートした（10月15日）。約235,000㎡にのぼる敷地に30年までに最大15棟のデータセンターの建設が進められる。